

講評



studio-L 山崎さん

助け合いやつながりに共感した人が多かったですね。つながりが本当に大切かどうかはわかりませんが、つながりが大事だと信じて生きていく自分でありたいなと思いました。映画を見て、共感できることを素直に言い合える人達がここにいるということは、大きな財産だと思います。映画の舞台は、高浜と全然違う環境でしたが、皆さんは、見事に高浜に置き換え、こんなことを明日からやってみようと思ってくれたこのことが素晴らしかったと思います。

つながりの話がありました。自発的につながっていくということもありますが、つなげる側に自分が入っていくという選択肢もあります。「入って！入って！」と人を誘い、参加させる力です。自分が大きく動いてつながりを強めていったり、人と人のつながりをさらに広げていくところに、一歩踏み込んでいけるようになれば、よりよいまちになっていくのではないかと思います。



吉岡市長

市職員ファシリテーター大活躍

今回のフォーラムでは、各シーンの意見交換のファシリテーションを担当したのは市職員の皆さん。昨年の11月から市職員の皆さんは、ヒアリングやワークショップのファシリテーション技術を習得する研修を受けてきました。そしてこの研修チームの名前は「T-LINE」。行政と市民、市民同士をLINEのようにつなぐ役割を担ってほしいという思いが込められています。

今回のフォーラムでは研修の成果をお披露目する機会となりました。シーンごと2〜3人1組になって意見交換の進行役に。まずは「何を食べているときがしあわせか」についての話題を交えて自己紹介をしました。その後、共感したしあわせについてと明日からできることを付箋に書いてもらい、一人ひとり発表してもらった流れ。市職員の皆さんは、自分から積極的に話しかけながら、参加者の皆さんの発言を促したり、話題をふったりと研修の成果がみられました。また、参加者の笑いをとりながら、ユーモアあふれる進行をするグループもあり、参加者した市民の皆さんは楽しく話し合いを進めることができました。



参加者の感想

たくさんの人の意見が聞けてよかったです。今日のこの場で学んだことを生かしてよりよい生活にしたいです。

自分の気持ちを素直に伝える場作りが大変すばらしかった。

女性パワーも個々に沢山お持ちです。皆さんの知恵を引き出して市がよりよい住みたい町でありたいです。

普段の生活ではなかなか気づきにくい「しあわせ」の形を改めて考え見直すきっかけとなりました。

映画の質が高いばかりでなく、見終わってからも考えさせられるフォーラムでした。

見知らぬ人と会話ができたこと。笑うことや思っていることを人に話すと気持ちが明るくなる。

これからはじまる「しあわせづくり計画」

来年度4月以降に、市民の皆さんへのヒアリング、T-LINEのメンバーと一緒にワークショップを進めながらしあわせづくり計画をつくっていきます。フォーラムでできたつながりを計画づくりでも活かしていきたいですね。

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参加型の総合計画づくりなどに携わっている。 <http://www.studio-l.org>

高浜市しあわせづくりフォーラム



しあわせに
くらすコツ
知りたく
ありませんか？

日付 平成27年2月15日(日)
時間 14:00 ~ 16:30
会場 高浜市いきいき広場

プログラム

- 14:00 はじめに
- 14:10 映画上映
- 15:10 トークセッション
- 15:45 意見交換
- 16:25 おわりに

高浜市では、これから「しあわせづくり計画」を策定していきます。これは市町村が策定する地域福祉計画ですが、社会福祉だけでなく教育や保健、環境など生活の様々な場面で行政がやることだけでなく、市民一人ひとりが自分にできることを考え、それをまとめた計画にしていきたいと考えています。今回のフォーラムでは、参加者一人ひとりが、自分のしあわせについて考え、自分にできることを考えるきっかけになりました。

吉岡市長あいさつ

継続して自分の幸福感や満足感を感じられるのだとしたら、それは誰かに感謝されたり、他の人のリアクションがあったり、それに応えたりしないと幸福感は長続きしないのではないかと思います。しあわせづくり計画は、いかに自分が行動するかが大切です。自分の心でしか幸せは決められないので、自分が楽しいと思えることをやっていく、そうして人とつながりをつくっていくことでしかないのではと思います。福祉とは、福は幸せ、祉も幸せを意味します。自分がここに住んでしあわせになれるような行動を起こしたり、つながりをつくっていきけるか。市民のみなさんと行政と一緒にできることを計画にしないと本当の地域福祉計画ではないのではないかと、これがしあわせづくり計画をつくろうとした時の私の思いです。



映画「ハッピーリトルアイランド」鑑賞

しあわせを考えるヒントとして、映画を鑑賞しました。この映画は、経済危機に陥ったギリシャを舞台に、職を失い、希望を失った若者たちが田舎を目指して移住(1ターン)した様子を追いかけたドキュメンタリー映画です。主人公は、IT関連の仕事をしていた35歳のトリス。彼女のアナとギリシャの離島でどこかミステリアスな島、イカリア島に移住しました。自給自足的で経済危機とは無縁なイカリア島で彼らは飛び切り元気で長寿な老人たちと出会い、人生を楽しむコツを学んでいくストーリーです。



吉岡市長 × 山崎亮トークセッション

映画の感想やしあわせについて、市長とstudio-L代表の山崎亮さんがトークセッションをしました。映画の舞台は離島でしたが、しあわせづくりのヒントとなるお話をたくさん聞くことができました。



山崎 日本には「足るを知る」という言葉があります。自分たちの満足度は、満足度の幅がどのくらいかによって変わってきます。ですからこの幅を無限に広げていけば、あれも足りないこれも足りないということになってしまいます。自分の生活の中で適切な幅を設定すれば、満足というものはかなり達成できるでしょう。島の中では、島へ移住した人たちはそれを小さくしていくことができる。あるいはそれ以上大きくすることのないような知恵を持つことになるし、ちょっと足りない人がいるなら、みんなを高めていこうと協力できますね。

市長 主人公は、島に慣れないと言いながら、自分の身の丈に合わせて島で生活し、何年かすると、ここで生きていてよかったと思えるようになっていくんだろうかと予感させられますね。

山崎 主人公である2人の男女を比べると、すぐに島の住人と打ち解けていた女性はしなやかですね。女性は本能的に人との関わり方を習得しています。21世紀で人口減少社会、縮退社会になってくると、いかにみんなで協力したり、仲良くなっていくかという技術を高めるかがより重要になってきます。本気で女性から学ぶことを男性が意識していかないと、地域が厳しい状況になっていくのではないかと予感があります。

市長 楽しさを見つけたり、友達を見つけたり、女性に学ぶところは多いですね。男性は会社の中では会社を回していこう、仕事をうまく進めるための仲間づくりをします。男性がどう活躍し、女性の良い所をどう使っていくかが、みんなうまくやっていける地域になるための大きなヒントかもしれませんね。

山崎 豊かさやしあわせを考えていくときに楽しさをどう定義するか。ショッピングセンターに買い物に行くことなど、お金を払って誰かに楽しませてもらっていることは、70年代の姿なのかもしれません。映画を見ていて**楽しさを自分たちの技術で生み出していくことがすごい大事な気がしました。**それがたぶん幸せにつながるような気がします。**楽しさを自分たちで作り出す技術を得た人の人生は、きっとずっと楽しく、しあわせになるのではないのでしょうか。**

市長 自分たちで「高浜をおもしろくしていこう」と行動したらどうだろう。まち協や町内会活動もメリットデメリットではなくて、入るのは当たり前で地域と一緒にやっていくことが大切なのだと思います。

山崎 友達の数であなたの寿命が決まるという面白い本があります。町内会の役員は健康に良いらしい、つくり笑いでも寿命は2年延びるらしいです。実際に顔を合わせてやりとりするのが、煩わしいこともあります。しかし、人とのつながりが健康や寿命に大きな影響を与えていることが世界的な研究で明らかになってきているようです。

グループワーク

印象に残った映画の中の8つのシーンに別れ、映画の中で共感したしあわせとそれを実現するために自分にできることをグループで意見交換しました。各グループで出た意見の一部を紹介します。

シーン1 暮らしをつくるしあわせ

野菜をつくったり、納屋を立てたり、商いをしたり

共感したしあわせ

少しくらい不便でお金が無くてもみんなで助け合いながら生活していけば良い / 生活に満足している考え方がとても幸福であると感じた / 他の人と「しあわせ」を共有する、分け合う / しあわせは自分で作るもの。作ることで自分がしあわせである

明日から自分にできること

強欲にならない! / 人付き合いはめんどくさい時もあるけど、それ以上に得られる物もある / 多くの人とざっくばらんに話す

シーン3 お互いを思いやり助け合うしあわせ

困った時はお互いさま

共感したしあわせ

1人では苦しい時がある / お互いを思いやり助け合う / 「こんな相手がいるなんて幸せだなあ」としみじみ思いました / 自分はしあわせが欲しいなら他人にしあわせを与えたほうがしあわせになれる

明日から自分にできること

あいさつしたりちょっと声かけしたり。自分から一歩進めた / 人とお話するときはこの人と話せて良かったな思えるような会話をしたいなと思いました / 住んでいる地域の人達に「うれしい」気持ちになってもらえる様に行動します

シーン5 大人になっても学ぶしあわせ

知的好奇心、学ぶ楽しさ

共感したしあわせ

物の豊かさより何事にも好奇心をもって前向きであること / 68歳の今でも知らない事が多い、新しい発見・出会いはしあわせを感じます / 自分が知らない事を知ったとき、また新しい事を学ぶ楽しさ

明日から自分にできること

何事も楽しさを見つけて前向きに過ごして協力していれば良いと思う / もっとたくさんの人と交流をしているんなことを知っていきたいです / このフォーラムのような機会に出会うことができた人との会話を大切にしたい

シーン7 遠回りしないしあわせ

自分にとって本当に必要なものがわかる

共感したしあわせ

今持っているもので満足すること / 若い頃に戻ったとしてももう一度同じ生き方をするだろう / “足るを知る”生活、多くを望まない生活が出来れば良いと思う / 身のたけに合った生活。人とくらべない

明日から自分にできること

身近で困っている人を助ける / 現在の生活に満足し、それ以上にしあわせを望まず、地域や他人のため、つくることができれば良いと思う / 自分にとって必要なものは何か。持っているものの整理

シーン2 はたらくしあわせ

人に喜ばれる、社会をちょっとよくする

共感したしあわせ

物の豊かさではなく、人とのつながりがあることでしあわせを感じる / 毎日やるべき事があるしあわせ。居る(必要とされる)場所のあるしあわせ / 好きだから楽しい。楽しいからもっと好きになる。誰かのために役立っているという実感を持つことがしあわせ

明日から自分にできること

早目に出勤して笑顔であいさつしたい / はたらく事で新しい事、人を知ることを忘れない / 困っている人がいたら「何か手伝いしましょうか?」と声をかけてみる

シーン4 自分らしくいられるしあわせ

自分のことが好き、自分の価値観を信じられる

共感したしあわせ

こうでなければいけないということでない / 周りのことは気にしない(情報)、自分が好きなことやる / 「自分の事が好き」私も自分が大好き / 仕事に動かされることのない生活、忙しくて心が乏しくない毎日に共感

明日から自分にできること

一日の評価 / 今を見直す / 自分が本当にやりたいことを考える / 女房との会話を増やす / 人の事も好きになる。仲間友達を増やす / 他人の個性も大切にする姿勢 / 自分の考えを伝えていく

シーン6 仲間のいるしあわせ

一人ではできないことも、仲間と一緒になら

共感したしあわせ

何をやるにも1人じゃ動けない / 協力する作業はいくらでもある / 同じ目的を持った仲間がいること / 友人が増えていく / 自分のまわりには人がいること、1人じゃない / たくさんの人が集まると楽しい

明日から自分にできること

みんなとおしゃべりする / 1人でもたくさんの知合いをつくるぞ! / 仲間とのコミュニケーションをしっかりとする / いろいろなことに挑戦し、まわりの人交流を深める事 / 作り笑いでもたくさん笑う

シーン8 地域でつながるしあわせ

地域の人同士顔見知り、見守り

共感したしあわせ

タダでもらった果物に付加価値をつけて安くとも売るといふ経済活動をしているのがしあわせ / 自分だけでなく、みんなで分けあたえられるような考え方ができたら幸せだと思う / 自分の足りない部分を補ってもらえるところ

明日から自分にできること

お互いに助け合う気持ちを大切にする / 仲間や地域の人達ともっとつながりを深く持ち、情報や知識を共有したい / 恵まれた環境をしあわせに感じ、もっと多くの人と共有していけるよう活動したい

